

## C バーバーとT ヨシダ 交流日誌

7月13日 (日)

バーバー到着。9:00pm、烏丸京都ホテルチェックイン。  
川嶋さんとバーバーが喫茶室で休憩中に私から電話をし、バーバーの無事到着を確認する。(私は、当日大学の行事の為、出迎えることができなかった。)

7月14日 (月)

11:00am、ホテルロビー、バーバー、私、私の友人板倉さん(日本学術振興会特別研究員)と3人が初めて会う。お互いに自己紹介をする。その後12:30pm迄、バーバーが、京都で見学や経験したい事の希望等を聞きながら話し合う。彼女の言葉で印象深かったのは「日本の日常的な生活、普段の生活を見たい。」と何度も言われた事だった。私自身、作品制作時「いつも見慣れたもの、日常性の中に見る新鮮な出会い発見」が作品制作の源と考えているので、その考えと通じるものがあると感じた。

彼女が気にしていた問題は、私と二人でする『コラボレーション』をどうするかという事だった。その質問に対しては、私のアイデアとして、「先ず、京都を楽しむ事、前半(8月半ばまで)は種々多くのものを『鑑賞する』『見学する』、後半(8月半ばから9月半ば)にワークショップや小作品の制作を試みることを提案した。初対面の挨拶と簡単な打ち合わせくらいと思っていたが、通訳をしてくれる板倉さんと共に話題が広がり、2時間余りも話しが弾んでしまった。

1:00pm、昼食は、江戸末期からの歴史がある建物で料理旅館の「吉川」のてんぷらにした。目の前で料理をする板前さんの包丁さばきや所作に、バーバーは目を見張っていた様子だった。てんぷらは見た目を味も気に入ってもらえたようだ。昼食後、京都の中心街を主に、建てられて100年

200年経った今も、美しく手入れされ使われている旅館「炭屋」「柵屋」の前を通り、京都の台所と云われる錦小路の商店街に赴く。狭い通りにぎっしり並ぶ店を見ながら歩いていると、ふと気がつけば、商品を不思議そうに覗き込んでいるバーバーの姿があった。錦小路から大丸百貨店を抜け、四条通りに入る。この時期、日本三大祭りの一つ祇園祭りが始まっていて、四条通りにはこの祭りの象徴である9基の「鉾」と23基の「山」がたつ。16日の宵山（前夜祭）には日本各地をはじめ世界から50万人近い観光客が集まる。今日も、もうすでに相当な人出の中、鉾を見物する。祭りの先頭に行く「長刀鉾」は女人禁制なので、「船鉾」に乗せる。鉾の中ではボランティアのガイドの説明を受ける。バーバーの京都文化体験は「鉾に乗る」から始まった。

7月17日（木）

この日は、平安時代から連綿と続くこの祭りの最大の行事、山鉾巡行が行われる。バーバーがこの日に間に合う日程であることが、7月初旬に川嶋さんより連絡を受けていたので、巡行の観覧席をその時点で確保することができた。

当日、私は大学へ出なければならなかったもので、14日にバーバーに観覧席の券を渡し、板倉さんに同行してもらった。

後日、板倉さんの報告によると、暑い日差しの中、巡行の最初から最後まで興味深く見続けたということだった。

7月21日（月） ～ 7月29日（月）

「20 years International Textile Art Gaze」の展覧会に招聘を受け、渡欧し、この間、Grez in Austria に滞在する。